

青 山 小 だ よ り

平成29年 10月2日
港区立青山小学校 NO.6
校長 下城 英和

充実の秋

副校長 高須賀 俊秀

新米、栗、きのこ、果物等がたくさん店頭に並びまさに「実りの秋」を迎えました。四季折々の情景が異なりそれぞれの良さを感じられる日本です。日本は農耕民族ゆえ、昔からたくさんの農作物の収穫を通して秋を実感することが多いようです。また豊作に感謝して各地でお祭りも催されていて綿々と受け継がれています。

主食である「米」はどのようにして作られているのか米作りの手順をお知らせします。

「田んぼの準備」

田んぼを耕し、肥料を入れ、水を入れ苗を植える準備をします。

「育苗」(いくびょう)

種もみからある程度の大きさまで苗を育てる作業を育苗といいます。

「田植え」

苗が成長したら田んぼに植えます。広い田んぼにたくさんの苗を植えるのは大変重労働で昔は家族総出で行っていました。5年生が1学期に学校で田植え体験をしました。

「田んぼの管理」

苗を植えたら「後は成長を待つだけ」ではありません。水の管理、肥料を入れる、草取り・病虫害対策、災害対策等たくさんの管理をして米の成長を助け、見守ります。

「収穫」

いよいよ収穫。たわわに実った稲を刈り取り収穫、脱穀、米の乾燥をします。

「米」という字は分解すると「八十八」となり、米作りには八十八ものたくさんの手間がかかっているといわれています。今は機械化が進み作業が簡単にできるようになった部分はあるもののやはりたくさんの苦労があつてお米は作られています。春の育苗、田植えから始まって暑い夏、台風の季節を越し、ようやく実りの秋を迎えます。

さて、学習でも運動でも芸術でも米作りと同じようにたくさん練習、努力の継続が必要です。やはり一朝一夕には確かな力は身に付きません。

子供たちの中には今、グーンと力を伸ばしてきている子もたくさんいることと思います。きっとこれまでの頑張りの成果が表れてまさに「実りの秋」を迎えたのでしょう。残念ながら今までは・・・という子もいるかもしれませんが、ですが、心配ありません。「頑張ってみよう」と思い立った時が種まきの時です。少し時間はかかりますがじっくりと実らせていってほしいと思います。

秋は学習をするにも運動をするにも芸術を極めるにもとてもいい時期です。食べ物もおいしいですね。旬のものをたくさん食べてしっかりとした体を作ること成長期の子供たちにとっては大切なことです。それぞれの目標に向かって実りの秋から充実の秋にしてほしいと思います。

すてっぷあつぷ教室の通級及び学習支援員の配置の申込みについて

平成28年4月から、発達について気になる児童を対象に、本校において通級指導を行う、すてっぷあつぷ教室を開室しています。すてっぷあつぷ教室とは、生活面や学習面での困難を克服・改善するための指導を行うために、設けられた教室です。

また、通常の学級の教室内での一斉指導において、苦手な部分を補うために、個別的に支援を行う学習支援員についても今まで通り配置を希望することができます。

平成30年4月から、すてっぷあつぷ教室の通級を新たに希望される保護者の方や学習支援員の配置を新規に希望される保護者の方は、11月17日(金)までに、担任、特別支援コーディネーター(白井・関根)、または副校長(高須賀)に御連絡ください。

※なお、継続して、すてっぷあつぷ教室や学習支援員の配置を御希望される保護者の方につきましても、上記同様11月17日(金)までに御連絡をお願いいたします。期日までに御連絡がない場合は、次年度の継続希望はないと判断させていただきますので予め御了承ください。併せてよろしくをお願いいたします。